

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-261925

(43) 公開日 平成11年(1999) 9月24日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>

H 0 4 N 5/64

識別記号

5 7 1

F I

H 0 4 N 5/64

5 7 1 N

5 7 1 Q

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平10-56933

(22) 出願日

平成10年(1998) 3月9日

(71) 出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川 6丁目7番35号

(72) 発明者 深野 真樹

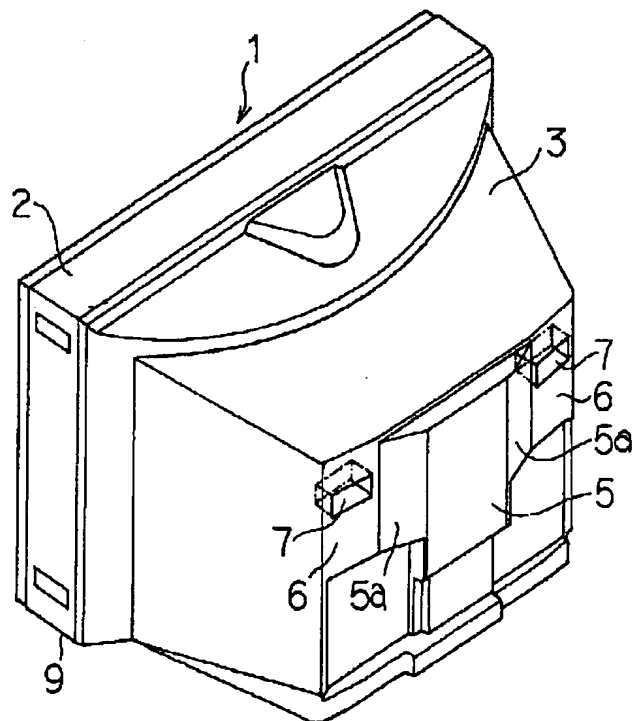
東京都品川区北品川 6丁目7番35号 ソニー株式会社内

(54) 【発明の名称】 キャビネット

(57) 【要約】

【課題】 ドアの付いた比較的狭い通路などを通り過ぎる際、手がドア等に当たったり挟まったりすることなく安全に電子機器を運搬することができるキャビネットを提供する。

【解決手段】 大型テレビのリアキャビネット3の背面には約1/3の面積を占める最外形部5が背面から最も突出する形で形成されている。最外形部5からテーパ部5aに沿って窪んだ位置にある左右の面6には把持部7が形成されている。この把持部7は箱形の凹部からなり、その開口部は手の親指を除く4本指がゆとりを持って差し込める程度の大きさに形成されている。キャビネット1を運搬する際、それぞれの側面に人が立ってフロントキャビネット2の側面下側の段差部9と把持部7とにそれぞれ手を掛けてバランス良く持ち上げる。このとき、把持部7を把持する手の甲部分10より最外形部5の先端面が外側に突出する。



# 【特許請求の範囲】

【請求項1】 運搬する際に指が差し込まれる凹部からなる把持部が少なくとも1面に設けられたキャビネットにおいて、

前記1面の最外形部より窪んだ位置に前記凹部を形成したことを特徴とするキャビネット。

【請求項2】 前記最外形部は、前記把持部を把持した手の甲部分が該最外形部より外側に突出しないように形成されていることを特徴とする請求項1記載のキャビネット。

【請求項3】 電子機器を収納するキャビネットに適用されたことを特徴とする請求項1記載のキャビネット。

【請求項4】 前記電子機器は32インチ以上のテレビであることを特徴とする請求項3記載のキャビネット。

【請求項5】 前記把持部は前記キャビネットの背面に設けられたことを特徴とする請求項1記載のキャビネット。

【請求項6】 前記把持部は側面に近い位置にそれぞれ一対設けられていることを特徴とする請求項1記載のキャビネット。

【請求項7】 前記凹部は前記キャビネットと一体に成形されていることを特徴とする請求項1記載のキャビネット。

# 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、大型テレビ等の電子機器などを収納するキャビネットに関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、重量のある大型テレビの運搬は、1人では困難であるので、2人で行われていた。このとき、2人のそれぞれがテレビの側面に回り込み、その位置でテレビを持ち上げて運搬することになる。図6は従来の大型テレビのキャビネットを示す斜視図である。図7は図6の大型テレビのキャビネットを平面から見た図である。大型テレビのリアキャビネット3aの平らな背面には把持部7aとなる凹部が左右に一対形成されている。2人でテレビを持ち上げる場合、フロントキャビネット2aの側面下側4aあるいはリアキャビネット3aの側面下側9aと、リアキャビネット3aの背面に設けられた把持部7aとが手をかける位置となる。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来のキャビネットでは、凹部に手の指を差し込んで把持部を把持した状態でテレビを持ち上げると、リアキャビネットの背面から手の甲部分が突出する形になるので、ドアの付いた比較的狭い通路などを通り抜ける際、手がドアに当たったり挟まったりしてしまうおそれがあった。

【0004】そこで、本発明はドアの付いた比較的狭い通路などを通り抜ける際、手がドア等に当たったり挟ま

ったりすることなく安全に電子機器を運搬することができるキャビネットを提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の請求項1に記載のキャビネットは、運搬する際に指が差し込まれる凹部からなる把持部が少なくとも1面に設けられたキャビネットにおいて、前記1面の最外形部より窪んだ位置に前記凹部を形成したことを特徴とする。これにより、凹部に手の指を差し込んで把持部を把持した状態でキャビネットを持ち上げると、手の甲部分は最外形部により保護される形となるので、手がドア等に当たったり挟まったりすることなく安全に電子機器を運搬することができる。

【0006】また、前記最外形部は、前記把持部を把持した手の甲部分が該最外形部より外側に突出しないように形成されていることが好ましい。さらに、電子機器を収納するキャビネットに適用されることが好ましい。また、前記電子機器は32インチ以上のテレビであることが好ましい。さらに、前記把持部は前記キャビネットの背面に設けられることが好ましい。また、前記把持部は側面に近い位置にそれぞれ一対設けられていることが好ましい。さらに、前記凹部は前記キャビネットと一体に成形されていることが好ましい。

## 【0007】

【発明の実施の形態】本発明のキャビネットの実施の形態について説明する。本実施の形態におけるキャビネットは32インチ以上の大型テレビを収納するキャビネットに適用される。図1は実施の形態における大型テレビのキャビネットを示す斜視図である。大型テレビのキャビネット1の内部には、フレームに取り付けられたブラウン管、シャーシに取り付けられた電子部品を搭載するプリント基板、スピーカ取付部に取り付けられたスピーカなど周知の部品が組み込まれている。キャビネット1はブラウン管の管面が突出するようにその大きさに合わせて成形されたフロントキャビネット2と、このフロントキャビネット2にビスで取り付けられるリアキャビネット3とから構成され、それぞれ型成形により合成樹脂などで一体に成形されている。

【0008】リアキャビネット3は略四角錐台状に成形されており、その背面には約1/3の面積を占める最外形部5が背面から最も突出するように形成されている。最外形部5からそのテーパ部5aに沿って窪んだ位置にある左右の面6には把持部7が設けられている。図2は指が差し込まれた状態の把持部近傍を拡大して示す図である。この把持部7は箱形の凹部からなり、その開口部は手の親指を除く4本指がゆとりを持って差し込める程度の大きさに形成されている。

【0009】図3は背面に凹部が形成された大型テレビのキャビネットを平面から見た図である。凹部の深さはキャビネット内部に収納された部品と当たらないように

設計されており、キャビネットをコンパクトな大きさにするためには、最外形部5が高くなる程、凹部の深さを浅くする必要がある。また、最外形部5の高さは、図3の間隔dに示すようにキャビネットを運搬する際に把持部7を把持する手の甲部分Aより突出するように設計されている。

【0010】図4はキャビネットを持ち上げて運搬する様子を示す図である。キャビネット1を運搬する際、2人のそれぞれがキャビネット1の側面に立ち、フロントキャビネット2の側面下側の段差部9と把持部7とにそれぞれ手を掛けてバランス良く持ち上げる。このとき、把持部7を把持する手の甲部分Aより最外形部5の先端面が突出するので、ドアの付いた比較的狭い通路等を通り過ぎる際、誤って手がドアに当たったり挟んだりするおそれを回避できる。

【0011】このように、最外形部5から窪んだ面6に把持部7を設けることで、大型テレビのキャビネットを安全に運搬することができる。尚、上記実施形態では、把持部として形成される凹部の形状は単に箱形であったが、種々の形状にしてもよい。図5は種々の形状の凹部を示す図である。同図(A)では把持するときの指の形状に合わせて内側の上面部17aが波形に形成されている。これにより、指にフィットして持ち運びしやすくなる。また、同図(B)では上面部27aにテーパが形成されており、持ち運びの際に指が凹部から抜け出にくくなる。

【0012】また、上記実施形態では、背面の両側面に近い位置に把持部7が一对設けられていたが、把持部の数は1つだけであってもよいし、3つ以上であってもよい。さらに、凹部に開閉自在な蓋を設けてもよく、開状態では凹部を運搬用として使用し、閉状態ではイヤホンなどの収納ボックスとして使用できるようにしてもよい。また、上記実施形態では、最外形部の内側は、特にフライバックトランスや偏向コイルなどの部品の形状に合わせた空間となっていないが、これらを収納するような空間を持つように最外形部を形成してもよく、キャビネットをより一層コンパクトな大きさにすることができる。

【0013】さらに、把持部となる凹部の底面に通気孔を形成して放熱効果を高めてもよい。また、リアキャビネットの一部として一体に形成される凹部の周縁部を他の部分より厚くして強度を高めるようにしてもよい。さらに、凹部の内側上面に滑り止め部を設けてもよく、運搬時の安全性を高めることができる。また、上記実施形態では手の親指を除く4本の指が差し込める程度に開口部は広く形成されていたが、指が1、2本だけ差し込める程度に開口部を狭く形成してもよく、キャビネット内側で制限されるスペースを抑えることができる。

【0014】さらに、上記実施形態では、例えば32インチ以上の大型テレビのキャビネットに適用された場

合を示したが、これに限らず、空気調和機（エアコン）、複写機、ファクシミリ装置などのキャビネットに適用してもよい。また、電子機器のキャビネットに限らず戸棚などのキャビネットに適用することも可能である。また、キャビネットの形状によっては背面に限らず、側面に把持部を設けるようにしてもよい。さらに、上記実施形態では、把持部を把持した際に手の甲部分が最外形部より外側に突出しないように、つまり、図3の間隔dが存在するように最外形部が形成されていたが、手には弾力性があるので、手の甲部分が最外形部より多少突出するように形成しても特に大きな問題は生じない。また、最外形部の表面に緩衝材を貼り付けてもよく、通路の壁面に当たった際にはその衝撃を和らげることができ、キャビネットを保護できる。

#### 【0015】

【発明の効果】本発明の請求項1に記載のキャビネットによれば、運搬する際に指が差し込まれる凹部からなる把持部が少なくとも1面に設けられたキャビネットにおいて、前記1面の最外形部より窪んだ位置に前記凹部を形成したので、ドアの付いた比較的狭い通路などを通り過ぎる際、手の甲部分は最外形部により保護される形となり、手がドア等に当たったり挟まったりすることなく安全に電子機器を運搬することができる。

【0016】請求項2に記載のキャビネットによれば、前記最外形部は、前記把持部を把持した手の甲部分が該最外形部より外側に突出しないように形成されているので、より一層安全に電子機器を運搬することができる。請求項3に記載のキャビネットによれば、電子機器を収納するキャビネットに適用されたので、電子機器を収納するキャビネットの運搬に支障が生じることを回避できる。請求項4に記載のキャビネットによれば、前記電子機器は32インチ以上のテレビであるので、特に大型のテレビを運搬する際に安全性を高めることができる。

【0017】請求項5に記載のキャビネットによれば、前記把持部は前記キャビネットの背面に設けられるので、設置後は見えなくなり、外観を損ねることを回避できる。請求項6に記載のキャビネットによれば、前記把持部は側面に近い位置にそれぞれ一对設けられているので、側面に立って2人で持ち上げ易くすることができる。また、請求項7に記載のキャビネットによれば、前記凹部は前記キャビネットと一体に形成されているので、型成形などにより簡単に凹部を形成することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】実施の形態における大型テレビのキャビネットを示す斜視図である。

【図2】指が差し込まれた状態の把持部近傍を拡大して示す図である。

【図3】背面に凹部が形成された大型テレビのキャビネットを平面から見た図である。

【図4】 キャビネットを持ち上げて運搬する様子を示す図である。

【図5】 種々の形状の凹部を示す図である。

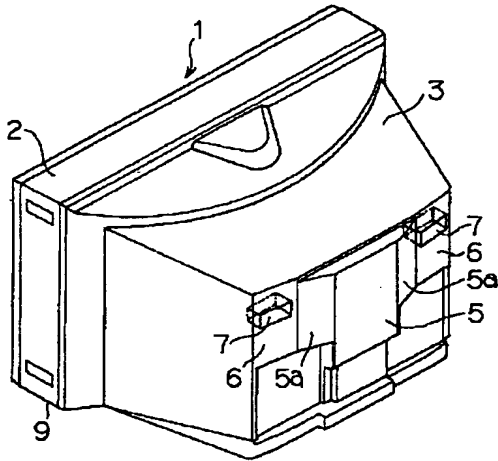
【図6】 従来の大型テレビのキャビネットを示す斜視図である。

【図7】 図6の大型テレビのキャビネットを平面から見た図である。

【符号の説明】

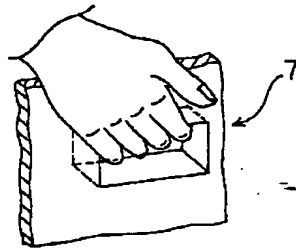
1…キャビネット、2…フロントキャビネット、3…リアキャビネット、5…最外形部、7…把持部。

【図1】



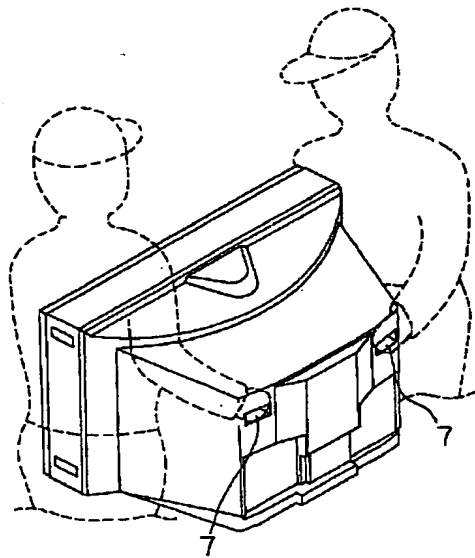
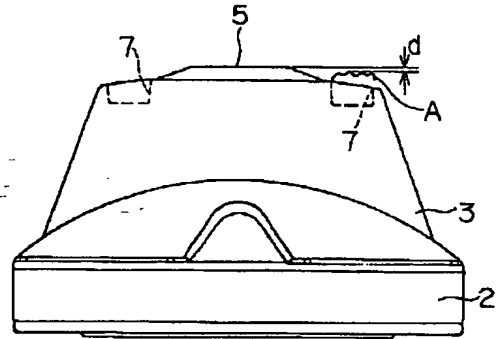
【図4】

【図2】

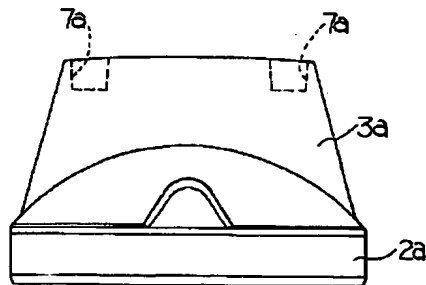


【図5】

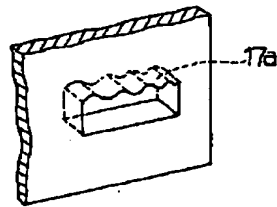
【図3】



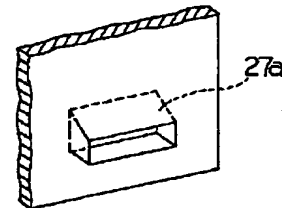
【図7】



(A)



(B)



【図6】

